モモカのモーモー新聞

私のひいおばあちゃんは十勝の鹿追町の酪農家です。今はおじさん、おばさんたち4人で仕事をしています。取材に行きました。

ひいばあちゃんは昭和32年に畑作もやりながら、牛一頭から酪農を始めました。ひいじいちゃんもひいばあちゃんも酪農の経験がほとんどなく、初めのころは大変だったそうです。

えさはデントコーンと牧草を発こうさせたサイレージと配合飼料とモミ草をあげています。デントコーンは、私よりも背が高く、実だけでなく茎や葉も使います。実を食べてみると固くて大きなぞに落とすだけで流れていきます。

↑コンデント畑

昔は手作業でデントコーンを切ってえさを作りました。今はえさを作るセンターで作ってもらっています。

↑ふん尿をためる所

ふん尿のそうじは昔手作業でしたが、今はトラクタで牛舎にあるみぞに流れていきためます。

ふん尿をためる所からスクリューでトラクターへ。そこからオガクズとバイオガスプラントへ。

1日900kgの藁を10こ使います。

食べているところ

サイレージ

酪農家の今と昔をくらべてみよう！

昔はしぼる牛は一頭で、さく乳（乳しぼり）は手しぼりでした。その後バケットミルカーという空気の力でしぼるきかいになりました。昭和51年に牛舎をたて、パイプ（牛乳を冷やすところ）にためるパイプラインというきかいを使い始めました。

↑バケットミルカー

平成24年からは、さくの開け閉めで牛が自分で出たり、入ったりするミルキングパーラーでしぼるようになりました。

↑ミルキングパーラー

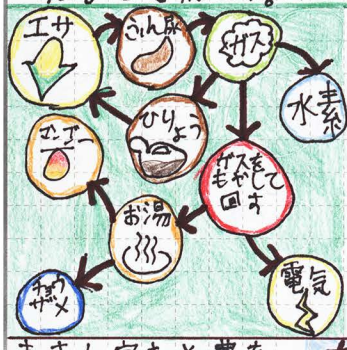
しぼったの量はメーターで分かります。下の表のように量もどんどん増えました。けれど乳をしぼる期間が短くなり、短命になってきています。「牛は命をけずってお乳を出している」とおばくれています。

	昭和32年	昭和40年頃	昭和51年	平成24年	今
しぼれる牛の数	1頭	10頭	25頭	80頭	151頭
1頭で1日にしぼれる量	15kg		28kg	34kg	36kg
乳のさくかい	手しぼり	バケットミルカー	パイプライン	ミルキングパーラー	
乳をしぼれる期間	8才まで		7才まで	5才まで	

牛のふんのにおいがきえる!?
バイオガスプラント

鹿追町には2か所の日本最大級のバイオガスプラントがあります。取材に行きました。

鹿追町には牛が3万頭います。畑に牛のふん尿をまくと、においが街の中に広がります。役場に苦情がきたため平成19年にバイオガスプラントを作りました。窓を開けるとくさいと、ふん尿は温めて発こうさせるとにおいが消えます。発こうでできるバイオガスで電気を作り、この時にできるお湯を使って再びふん尿を発こうさせます。



↑ウザメ

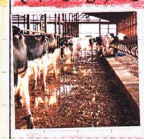
お湯は他にもウザメ（チョウザメ）の飼育やマンゴーのさい培にも使っています。バイオガスプラントは水素も作っています。バイオガスからはSDGsにちつもこうけんしています。

あとがき

大変な仕事をしている酪農家がいないと牛乳がのめません。酪農家は本当にがんばっていてすごいと思いました。

やってみた！酪農家の半日体験

5:00 朝早くから!!



ふんのそうじ

トラクターで仕事をさいごまでやりました。

子牛のえさやりをしました。

牛にえさをあたえて、どいてもらいました。

ひっぱるのがとてもかんたんでした。

6:00 牛しぼる

バケットミルカーでしぼる。

パイプラインをしぼる。

ミルキングパーラーでしぼる。

乳に頭数は151頭。

ぼくじょうは2ヘクタールあります。

おびしぼる時間は2時間。

温かいうちにおくります。

6:00 8:00 牛

さくばいをします。

えさをあたえます。

ばっさいをします。

ちたをするのです。

時間をせいじどうでしています。

全じどうでしています。

9:30〜15:30 牛

対応作業をします。

牛のパーラーでしぼります。

15:30〜19:30 牛

ふん尿をためる所をそうじします。

あとかたづけをします。

あつくて、午後からはじめます。